

# IRONMAN70.3 Sri Lanka 参戦記

遠藤 修作



2012年2月19日（日） レース当日

5時頃にはトランジットに行き準備を進めるが、あたりは真っ暗。スタート時刻の6時になっても夜は明けず、20m先は漆黒の闇ばりの暗さのためかスタートが延期になる。入水してからも号砲は鳴らず、30分ほどつかったところで突然の号砲とともにスタート！

海は沖合いで波があるものの、おだやかで泳ぎやすいコース。1500mあたりで目標物をまちがってしまい若干ロスしたものの、まずまずのタイムでスイムフィニッシュ。バイクコースは前半が市街地、後半は海沿いの一本道をひたすら走るフラットコースを3周回。通行止めではないものの、交差点では警察が車を止めて選手を優先的に通してくれる。ただ、時おり車が突っ込んできたり、道路にくぼみがあったりするので前方確認は必要。調子よく38km/hぐらいで巡航するが、それでもごりごり漕ぐ欧米選手には抜かれていく。70kmあたりから足にきて、TTポジションがとれなくなってしまい30km/hをキープするのがやっとの感じでフィニッシュ。

残すはラン。太陽がぎらぎら照りつける海沿いの道を2周回。走りはじめ5kmまでの序盤はバイクからランの足に切り替わるまで我慢の走りが続き、そこから徐々にペースをあげていく作戦。給水と補給食を小まめにとり、作戦どおり途中から少しずつペースをあげて前との差を確実につめる。沿道にはギャラリーも多く、レースをしていることに喜びを感じる。



と、ギャラリーのなかに現地で仲良くなったスリランカ人が家族を連れて応援に来てくれていた！これには感激して、走りにも力が入る。そうこうしていたら2周回目も終わりにさしかかるが、20kmも走った感じが無い。不安に感じつつも、トレーニングしてきた結果かなと思い自己完結。でも、やはり変。そこでボランティアに聞くと、「2周でOK！フィニッシュに行け！」とのこと。スロットを獲得するために立ち止っては行けないので、その言葉を信じフィニッシュラインへ。フィニッシュ後、さきほどの家族と喋りつつ後続選手を見守る。「あれっ、前を走っていたはずの選手がまだ走っている???」。恐る恐るオフィシャルに確認すると「2周回じゃないよ」と笑顔で言われ、トライアスロン人生初のDNFが決定しました。前日のブリーフィングで変更が伝えられていたようですが、英語が聞きとれず撃沈。

レース後しばらくは、もやもやした気分でしたがこれも結果。スロットを逃したことは本当に悔しいが、レースに向けて高いモチベーションでトレーニングしてきた成果を出し切れたことは自信となっている。今は意外と晴れ晴れした気持ちで、次のレースが楽しみ。やっぱりトライアスロンは最高！



DNF Swim 39:49 / Bike 2:45:05 / Run ---